

刻んだ夕日のかけらを

刻んだ夕日のかけらを
ポケットに入れたまま
道端のベンチに腰掛けていた僕は
ゆっくりと立ち上がった

まっすぐ上にある空を仰ぎ見ると
夕日から放たれた光の粒が
全身に纏わりついてきた

立ちすくんでいる僕を
野良猫がちらりと見上げて通り過ぎた
お前は誰だって言いながら

ポケットに入れた夕日を取り出して
遠くの地平線へと投げ放つと
一筋の赤い光が胸を貫通した

屋根に座っていた野良猫が
ゆっくりと伸びをして歩きだした
光の粒を振るい落としながら